

第3回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年11月13日(月) 午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 松本市役所東庁舎議員協議会室
- 3 出席委員 会 長 長沼 豊 氏
副会長 新井 喜代加 氏
委 員 宮下 昌史 氏
委 員 加藤 慎介 氏
委 員 矢野 麻美 氏
委 員 横内 俊哉 氏
委 員 柄澤 深 氏
委 員 青山 織人 氏
委 員 櫻井 貞文 氏
- 4 事務局 伊佐治教育長、逸見次長、坂口教育監、大島スポーツ本部長、小口文化観光部長、藤森住民自治局長、小西教育政策課長、清沢学校教育課長、丸山学校教育課施設担当課長、石川生涯学習課長、甕地域づくりセンター長、山本スポーツ事業推進課長、清澤文化振興課長、幅部活動地域移行統括コーディネーター、高山学校支援室指導主事、三井スポーツ事業推進課長補佐、齋藤スポーツ事業推進課主査、森田生涯学習課主事、降旗教育政策課係長、竹内教育政策課主査、千賀教育政策課主査、脇谷文化振興課主事

<会議事項>

地域移行モデルケースの進捗状況について

幅部活動地域移行統括コーディネーターが説明。

(委 員) Always(高綱中女子バスケ部の部活指導員が発足した地域クラブ)の活動でエンジョイコースと競技志向コースと分かれていると聞いた。競技性を求める子は何人位いるのか？

(幅統括コーディネーター)

約10名と聞いている。

(委 員) 競技性を求める子は高綱中学校の生徒だけでなく、他の中学校の生徒も入ってもいいのか？

(幅統括コーディネーター)

その通り。高綱中学校の女子バスケットボール部の生徒が全員入っているわけではなく、自由に参加できる。ただし、選手の取り合いになってはいけないので、バランスも必要だと思っている。

(委 員) 女鳥羽中学校のバド部の休日部活動がなくなるということは、女鳥羽中

学校という学校名での大会参加は終わりということか？

(幅統括コーディネーター)

学校長判断だが、大会へは女鳥羽中学校では出ないと聞いている。平日のバド部は残るので指導を継続していくが、休日は無しになる。クラブへは全員が入るわけではない。

(委員) モデル事業に参加した子どもたちの感想を聞いていれば教えてほしい。

(幅統括コーディネーター)

子どもたちにとって、目に見えて形が変わったのは野球だけである。野球以外は指導者もほとんど変わっていない。子どもたちは今まで通り活動している。野球については、「合同でやることにより、学校とは違う仲間と一緒に練習できる」、「同校の先輩は少ないが、いろいろな学校の先輩を見て練習できる」、「他校の生徒とレギュラー争いで競うことができるため、本気でプレーできる」などの意見を聞いている。

(委員) 地域クラブについて、子どもたちに説明する機会はあるのか？

(幅統括コーディネーター)

来年度に向けて自分たちがどんな種目、活動に参加できるのか、現6年生が一番心配していると思う。年明けに新入生向けの入学説明会があるので、それまでにクラブ一覧などを説明できるようにしたいと考えている。

(委員) 今回の対象は松本市だと思うが、広域的な考えはあるか、安曇野市や塩尻市、他市町村のクラブに参加できるか。

(小西課長) 推進計画にもあるように広域的な活動を進めていく。

(長沼会長) 全体を通して、モデルケースを行っている方々、地域の指導者の方々、無理なく進めていると思う。できる学校から、できることから少しずつ進めている。スムーズに始まっている印象。大会やコンクールの在り方が変わっているのか、あるいは変わらないのか、どういう形でクラブが参加できるのか？こういったところが検討課題になってくると思う。特に文化部は鍵の管理が課題になってくる。吹奏楽は楽器の管理、備品の管理、校舎内の管理をどうやって行っていくかが今後の課題だと思う。

課題管理表の対応報告について

降旗教育政策課係長が説明。

(委員) No. 24について、現場での懸念事項として、令和8年の4月に地域移行の話題が出ているが、そこをゴールと考えるような職員もいる。受け皿がないので、そのまま自分の担当している部活動を保護者とともに社会体育の規約を作って、休日の社会体育活動として続けるようなイメージを持ってしまう職員もいるが、それは避けたいと思っている。

(降旗係長) いただいたご意見を参考にしながら進める。

(委員) 先日保護者間の話で、指導者の質が気になるとの話題があった。少年野球や少年サッカーでは協力できる指導者が少ないとも聞いている。指導

者を探し出すことが困難だと思っている。部活ではないが、先日清水中学校での子どもたちの地域活動が新聞記事として掲載された。地域としても前向きに協力したいといった意見も聞いている。

(伊佐治教育長)

指導者が少ないのはこの自治体も抱えている課題。文化観光部で指導者の研修会や指導者を開拓していく取組みに種を撒いている状況。指導者の質については、子どもたちと接する上でも基本的な事項等を定期的に発信していくこと、また研修を行っていく必要があると思う。

(伊佐治教育長)

部活動の地域移行をきっかけに、部活動になかったことについてもアンケートをとり、地域のみなさんと実現していくことが大事だと思う。市としてもあらゆる視点で、子どもたちのやってみたい活動をどうやって実現できるか手探りで探っている状況。

(委員)

山間地の学校について、ICTを使ったりリモートコーチングは的を射ているのか？直接指導でなくて大丈夫か？

(降籬係長)

山間地域は市街地の団体活動に移動するまでに30分から1時間くらいかかる。生徒にかかる負担も大きいため、2週間に1回や月1回指導者に直接触れる機会を設けるなど、全てをリモートにするのではなく、併用で検討を進めたいと思う。

(長沼会長)

人材バンクを行政が管理する事は難しいと思う。顧問の先生や昔からの指導者、卒業生であれば信頼できるが、顔の見える関係で成り立っているため、全然知らない人が人材バンクで入ってきてミスマッチが起こる。指導者の質の担保ができる仕組みを考えていく必要がある。

松本市部活動地域移行推進計画(案)について

小西教育政策課長が説明。

(委員)

移行スケジュールについて「令和7年度8～10月ころ、全ての休日部活動を移行」と書いてあるが、学校現場からすれば、新入生は自分たちの土日の活動はどうなるか、質問してくる。11月から2月にかけて入学説明会があり、その時にも部活の質問が出る。このスケジュール感には少し疑問が残っている。「令和7年8～10月ころ、全ての部活動を移行する」この意味合いはゴールを指すのか？

(小西課長)

ゴールではなく、目指すところとして説明したいと思っている。

(委員)

教員の欠員が顕著だと聞いている。教員の働き方、学校の改革の必要性を感じる。「学校部活動が担ってきた教育的意義」について、「はじめに」とP6で説明しているが、教育的意義について、P8以降でも明確に記述しておいた方が良いと思う。1年生から3年生の異年齢の生徒がそれぞれの役割を果たしながら、人間関係を構築していく過程が自己肯定感を高めていくと思う。そういったことも指針で入れた方が、地域クラブの担う役割も理解できて良いと思う。

- (委員) 「スピード感を持って」という言葉を使いたくなるが、子どもたちの気持ちを大切にしながら、教員や地域の皆さんとの調整を図りながら、関係者との調整をしっかりと図ったうえで、進めることが大事だと思うので、表記を変えたほうが良いと思う。
- (委員) 「会費は可能な限り参加しやすい金額を設定し…」という意味合いはわかるが、生業にしている団体にとっては自由な価格設定がしにくくなる。参加しやすい金額を当然考えるが、この表記があることで運営が厳しくなってしまうと思う。クラブ側には「参加しやすい金額を設定してください。」と捉えられてしまうと思う。
- (千賀主査) 運営側、参加者側双方のバランスが必要だと思う。アンケート結果も参考にしていただき、心にとめておいていただければと思う。
- (新井副会長) 部活への参加は自由であるはずが半強制的だったと思う。今後は自由参加が主流になることを期待している。一方で地域移行によりスポーツや文化活動から離れていく生徒が増えてくることも危惧している。どういった形でプロモーションしていくのか、実施主体にすべてを任せるのか、今後の方針を教えてほしい。
- (千賀主査) まずは部活がなくなっていくことで子どもたちが活動する場がなくならないよう、如何に多くの地域クラブが立ち上がるか、またその立ち上げを支援することがポイントだと考えている。積極的な情報提供を行い、生徒がやりたい活動を実現できるよう支援していきたいと考えている。
- (伊佐治教育長) 松本市には公民館や社会教育施設が豊富にあることが強み。そういった社会的公的資源を活用して、学校の先生だけに任せるのではなく、「地域の中で子どもを育ていく」と言った気持ちを育ていくことも大事だと考えている。
- (委員) 費用負担と送迎が不安要素だと思っている。活動場所から遠い中学校もあるので、送迎支援は必要だと思う。
- (小西課長) 他市の事例も参考にしながら進めていきたいと考えている。
- (委員) 地域の中で子どもを育てることについて、共感を持っている。競技性と求める生徒はクラブチームへ参加し、レク志向の生徒の活動は地域で支援することが良いと思う。保護者、PTAも一緒に手伝いたいと考えている。
- (伊佐治教育長) PTA役員にも核になってもらいたい。立ち上げ、開拓期については、指導者の確保が必要なため、市の職員が勤務時間内に教えることも一つの案だと思う。職務としてやるのは難しいと思うが、柔軟に対応していくことも大事だと思っている。
- (委員) このスケジュールを出せば教員間では衝撃が走ると思う。中体連以外の大会もほとんどが顧問の先生が主体的に運営しているのが現状。これらの大会も運営主体を見直すことをマイルストーンに入れてほしい。大会の改革について見える化が必要だと思う。
- (委員) マイルストーンの令和6年度から7年度かけて、今実施しているモデル

ケースがどうなっていくかが重要だと思う。

- (坂口教育監) モデルケースについては今後も拡大していくこと、また新たなモデルになり得る活動については総括コーディネーターが調整しながら対応していく。大会の運営主体はクラブの役員のみなさんに担っていただくよう調整していく必要があると認識している。こちらも併せて検討していきたい。
- (荒井教育顧問) P 8 対象者 「参加することもできます」「参加することができます。」に修正してほしい。
- (荒井教育顧問) 生徒と中学生といった表記が混在しているので、整えてほしい。ここでいう「松本市以外の中学校に在籍する中学生も・・・」とは誰のことか？
- (坂口教育監) 塩尻市や安曇野市など、周辺市町村や私立の学校を指している。
- (荒井教育顧問) P 10 活動内容 「三ガクト」「三ガク都」に修正してほしい。
- (荒井教育顧問) P 12 費用負担と軽減策 「地域クラブ活動を将来にわたって持続可能な活動とするため」から「参加者(受益者)による費用負担と原則」へはロジック的に繋がらないので見直してほしい。
- (荒井教育顧問) P 14 事務局 他の自治体からの問い合わせも想定し、電話番号は市外局番から記入してほしい。代表窓口も明確にしてほしい。Q & Aを作してほしい。
- (荒井教育顧問) パブリックコメントは実施する予定か？
- (小西課長) パブリックコメントは12月から1月にかけて実施する予定。
- (委員) 地域移行について、教員が理解しなければならないと思っている。松本市全体で共通資料に基づいて共有を図りたい。2月だと遅いので、その点も加味して進めてほしい。

(閉 会)